

2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年 3月 31日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	風早 由佳
研究課題	Nursery Rhymeを取り入れた英語特区用CLIL教材の開発—オーストラリアの小学校における言語教授法を応用して					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	風早 由佳	造形デザイン学科・准教授	英語教育・英米文学	研究総括	
	分担者					
研究実績の概要	<p>「内容言語統合型学習」Content and Language Integrated Learningの略称であるCLILは、教科科目やテーマの内容(content)の学習と外国語(language)の学習を組み合わせた学習(指導)の総称で、日本では主に英語を通して、何かのテーマや教科科目を学ぶ学習形態をCLILと呼び、小学校から大学教育まで幅広く導入されつつある。CLILの主な特徴は、「4つのC」:学習内容(content)の理解、学習者の思考や学習スキル(cognition)、学習者のコミュニケーション能力(communication)の育成、学習者の文化(culture)あるいは相互文化(Interculture)の意識を高める点にある。</p> <p>本研究では、まず、オーストラリアにおける第二言語(日本語、ドイツ語)教育とCLIL教育に着目し、教授法について調査した。とりわけ、日本の童謡を取り入れた日本語指導法、及びドイツ語(第二言語)で教科科目(プログラミング)を教える教授法について調査し、以下①の小学校での活用計画に活かすこととした。</p> <p>そして、第二言語習得においてNursery Rhymeの翻訳がCLIL教材として活用できることを検証するため、①郷土の詩人・画家である竹久夢二のマザーグース訳、マザーグース原文を使用したCLIL学習の可能性を検証すること、③マザーグースの竹久夢二訳と原文の照合資料の作成を行うこととした。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>①小学校教育での活用計画（案）作成</p> <p>小学校第6学年の英語科目内容（“I like my town”（Unit 4））に関して、Scratch を使ったプログラミング学習を導入しながら、竹久夢二のマザーグース訳と原文との比較を通して、日英言語の相違/共通点・文化的背景への意識を高めるとともに、音楽や図画工作との統合へと発展させられる授業カリキュラムを示すことができた。</p> <p>Bloom の改訂版 taxonomy (2001)、taxonomy の動詞を参照しながら少数を対象とした調査結果の評価を行った。郷土の文人を通して、地域社会へ目を向けながら、create 段階への到達を目指す CLIL 教材として発展が可能であることが確認できた。</p> <p>②夢二訳と原文の対応資料作成</p> <p>夢二独自の複雑な引用手法によって原文の判定が困難なため、これまでまとまった夢二のマザーグース訳照合資料はなかった。夢二の詩集『歌時計』等から、40 篇のマザーグース翻訳作品を発見し、CILC 授業において夢二のマザーグース訳を使用する際の教材資料として活用できる照合資料を作成した。</p> <p>また、本研究の調査において竹久夢二伊香保記念館に所蔵長田幹雄研究資料の中に「エブリマンス・ライブラリー原文」とメモ書きされた Nursery Rhymes の資料が残されていることを発見するとともに、夢二がマザーグースの翻訳を手掛ける際に、手拓本として <i>MOTHER GOOSE: A Collection of Nursery Rhymes, Tales, Jingles and Alphabets</i>(1877) から詩を選んだ可能性が高いことを明らかにした。</p> <p>今後さらに長田幹雄研究資料の調査を進め、これまで明らかになっていない夢二訳マザーグースの引用元や新たな翻訳例を調査する。</p>
<p>成果資料目録</p>	